聖書日課 『からし種』 2026.11.8－11.15

11月 8日 （日） 歴代下 7章	**「その夜、主はソロモンに現れ、こう仰せになった」（12節）。** ソロモンが主の神殿と王宮を完成した夜、主は、ソロモンの祈りに答えて語った。『今後この所でささげられる祈りに、わたしの目を向け、耳を傾ける』 しかし、『他の神々にひれ伏すなら、わたしのために聖別したこの神殿もわたしの前から投げ捨てる』とも。どちらになっていくのだろうか。
9日 （月） 歴代下 8章	**「ソロモンはエルサレム、レバノン、および彼の支配下にある全地域に、築こうと望んだ町々をすべて築き上げた」（6節）。** ソロモンは、二十年を費やして主の神殿と王宮を建て終わると、町造りに励んだ。これによって、イスラエルの全ての民がしっかり暮らせるようにした事は国の基礎となったのだろう。暮らしに平安を与えて、争いをおさめた。
10日 （火） 歴代下 9章	**「ソロモン王は世界中の王の中で最も大いなる富と知恵を有し、…」（22節）。**シェバの女王をはじめ、世界の王が、神がソロモンの心に授けた知恵を聞くために彼に拝謁を求め、多くの貴重な贈り物を彼に捧げた。よってソロモンは大いなる富を有することになるが、多くの外国の妻たちによって主に従えなくなる。多くの富は私たちに大きな誘惑となることを覚えたい。
11日 （水） 歴代下 10章	**「王は民の願いを聞き入れなかった。こうなったのは神の計らいによる」（15節）。**レハブアム王は若い側近の意見により、減税を願い出たヤロブアムの提言を退け更なる重税を課した。するとイスラエルの民は離反し、レハブアム王はユダの町を治めるだけの王となる。このようにして主に対するソロモンの背信は裁かれ国は分裂し、神のご計画が成就していく。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　**大井バプテスト教会**

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2026.11.8－11.15

12日 （木） 歴代下 11章	**「イスラエル中の祭司とレビ人は、そのすべての領土からレハブアムのもとに集まって来た」（13節）。**こうなったのは、ヤロブアムとその子らが彼ら(祭司、レビ人)を遠ざけ、主の祭司であることをやめさせたからである(14節)。ヤロブアムは、聖なる高台、山羊の魔神、自ら造った子牛に仕える祭司を自分のために立てた。これは、主の怒りとなった。
13日 （金） 歴代下 12章	**「彼らはシシャクに仕える者となり、わたし(主)に仕えることと…の違いを知るようになる」（8節）。**預言者シェマヤの言葉。レハブアムが主を捨てたので、エジプト王シシャクがイスラエルに攻め込んで来た。その時、レハブアムはへりくだったので、主はイスラエルを救われるが、「彼らはシシャクに仕える」ことを通して、主に仕えることとの違いを体験させられる。
14日 （土） 歴代下 13章	**「ユダの人々が見回すと、前方にも後方にも戦いが迫っていたので、主に助けを求めて叫び、祭司たちはラッパを吹いた。そしてユダの人々は関の声をあげた」（14－15節）。**ヤロブアムに攻め込まれそうになっていたユダの人々だが、神はアビヤとユダの人々の目の前でヤロブアムとイスラエルのすべての兵を撃退された。主に忠実であることが国を守ることになるのだ。
15日 （日） 歴代下 14章	**「こうして彼（アサ）の統治の下で国は平穏であった。主が安らぎを与えられたので、その時代この地は平穏で戦争がなかった」（4－5節）。**アサ王が主なる神を畏れ、偶像を取り除いた時、主は安らぎを与え、戦争がない時代が訪れた。富と力を国の基として求めるのではなく、主への畏れを土台にする時、人びとの心が豊かにされることを聖書は証している。

大井バプテスト教会